

## 高齢者の社会的孤立に関する一考察

- 鹿児島県枕崎市の高齢者生活実態調査から -

鹿児島国際大学 鄧 俊 (6777)

キーワード：高齢者 社会的孤立 社会的ネットワーク

### 1. 研究目的

昨今、誰にも看取られず一定期間放置されるような悲惨な「孤立死（孤独死）」がマスコミで頻繁に取り上げられ、これまでになく社会的関心が寄せられている。ニッセイ基礎研究所は、全国で毎年1万人弱から2万6千人以上の高齢者が「孤立死（孤独死）」に当該する可能性があるとして推計している。少子高齢化の進展とともに、高齢者夫婦世帯と高齢者ひとり暮らし世帯が増加し、ひとりでの老後生活期間が長くなり、社会的孤立に陥る可能性が高くなると考えられる。こうしたなか、高齢者の日常的な生活実態の解明は、高齢者福祉の分野だけではなく、現代社会と福祉を考えるうえで避けて通れない、重大な研究課題の一つになっているように思われる。

本研究では、社会的孤立を測る最も基礎的な変数である社会的ネットワークに着目し、配偶者や子どもや親戚などを含む家族ネットワーク、友人や近隣関係などを含む地域ネットワークの実態把握に焦点をあてる。これを手がかりとし、孤立問題の対応策、孤立高齢者への支援策を検討することが目的である。

### 2. 研究の視点および方法

鹿児島県枕崎市在住の高齢者に対する個別インタビューをもとに調査票を作成し、アンケート調査を実施した。アンケート調査は、枕崎市社会福祉協議会と共同実施し、民生委員が作成した高齢者のひとり暮らし世帯と夫婦世帯の名簿（合計4347人）から無作為に289人を抽出し、訪問面接を行ったものである。調査日時は平成22年6月12日から14日および30日であり、回収数は155、回収率は53.6%であった。調査集計には、統計ソフトSPSSのVersion16.0を用いた。

調査項目は、基本的属性のほか以下の9項目を設定した。健康、食事と栄養、買い物、日常生活、家族、近隣とのつきあい・相互扶助、社会活動、福祉サービス利用、孤立と信頼、枕崎市への意見。

### 3. 倫理的配慮

調査の実施に先だち、対象者に本研究の趣旨・目的および研究以外には使用しないこと、回答者が特定されることのないこと等を明記したハガキで調査協力を依頼し、同意を得た者のみに訪問調査を行った。調査に関しては、匿名性を担保するために無記名とした。

### 4. 研究結果

平成22年6月30日現在、枕崎市の高齢化率は31.2%である（枕崎市市役所企画調整課）。本調査対象者は男性38.1%、女性61.9%、平均年齢は76.1歳である。家族形態では「ひと

り暮らし」41.9%、「夫婦」53.5%、「その他」4.6%である。

#### 緊密な社会的ネットワーク

全体としては、枕崎市においては家族間の交流が多く、近所付き合いが親しく行われており、家族や地域の相互扶助が盛んであるように見える。具体的には「別居家族とよく連絡をとっている」77.0%、「近所と親しく付き合っている」74.3%、「近くにいる友人がゼロ」10.5%、「いざというとき頼れる人が6人以上」4.5%であった。このように地域における緊密な社会的ネットワークは、強い家族や地域の絆、高い信頼関係、低い孤独感という生活環境を作り出しているのではないかと考えられる。

#### 社会的孤立に陥りやすい男性ひとり暮らし高齢者

男性ひとり暮らし高齢者は地域とのかかわりが薄く、援助の手が差し伸べられず社会的孤立状態に置かれやすいことが確認された。男性ひとり暮らし高齢者には、「別居家族とあまり連絡をとっていない」40.0%（女性 25.5%）、「近所と親しく付き合っている」26.7%（女性 77.6%）、「誰かと話さない日が週4日以上」31.3%（女性 14.3%）、「近くに友人がゼロ」12.5%（女性 8.2%）、「いざというとき頼れる人がゼロ」18.8%（女性 4.1%）であった。

面接の際に聞いた「化石の人生」という男性高齢者の言葉は、まさに社会的に孤立している状態そのものの反映であると言えるだろう。今後、ADL および IADL いずれも自立度が低い傾向にある男性ひとり暮らし高齢者の社会的ネットワークづくりは、重要な課題であると思われる。

#### 社会的孤立と社会に対する一般的信頼度の正の関係

家族との連携、近所付き合い、地域の相互扶助、会話の頻度、頼れる人の数などいずれも、社会に対する一般的信頼と正の関係にあることが明らかになった。ここで信頼度を低、中、高という3つのレベルに分け、高信頼度の者に限定してみると、55.4%が「家族とよく連携をとっている」、81.3%が「近所と親しく付き合っている」、55.9%が「毎日誰かと話している」、14.3%が「頼れる人がゼロ」となった。すなわち、社会的ネットワークが広いほど社会に対する信頼度も高くなる半面、高い信頼度は社会的ネットワークを形成する要因の一つであるとも考えられるのではないか。

#### 総括

地域社会のつながりが脆弱化しているなかで、枕崎市はある程度緊密な社会的ネットワークをある程度しているように思われる一方、男女別にかなり大きな差があり、男性のひとり暮らし高齢者の社会的孤立状態が際立っている。これまで、地域において行政や地域住民による声かけや見守り活動などが行われてきている。しかし、これらの活動効果に性差があるとすれば、とくに男性ひとり暮らし高齢者に特化した支援策が、これまで以上に必要になってくるのではないだろうか。